
英雄の歩み

シュウジ・クロス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

英雄の歩み

【Nコード】

N4618R

【作者名】

シュウジ・クロス

【あらすじ】

オルガ大陸を統一した魔導帝国ネクロスの魔剣士アルケインが最凶の魔女フェルトによって他の世界にとばされてしまう。はてさてどうなることやら。

モバゲーのゲームが元の小説英雄になりたいと魔法少女リリカルなのはStrikerSのコラボです。

魔剣士行く(前書き)

英雄になりたいは知らない人が読んでも出来る限りわかるように細かくかきますが作者はリリカルなのはシリーズを一つも見たことがないのでこんなの違うと思う所があると思いますがまあそこは生暖かい目でみていただければこれ幸い。

魔剣士行く

ここは、オルガ大陸を統一した魔導帝国ネクロスの一室……そこに
はネクロス軍一の魔剣士アルエゴ・V・アルケインと最凶の魔女フ
エルト・メルンヴェルンが話をしていた

アルケイン「何ですか？フェルトさん」

フェルト「いや、お前に手伝って欲しいことがあってな」

アルケイン「フェルトさん自ら頼んでくるなんて嬉しいですね。そ
れで何をすればいいんですか？」

フェルト「ああ俺が魔導力を使って異次元への扉を開くから飛び込
んでくれ」

アルケイン「嫌ですよ！いくら不死者とはいえ異次元に行くなんて
帰ってこれなくなるじゃないですか！」

フェルト「大丈夫だ俺が魔導力を全力で集中していれば問題ない」

アルケイン「それでも嫌です」

フェルト「じゃあこれをやる」

アルケイン「こ、これは千年伯爵！しかも百年前の幻とまでいわれ
たワインじゃないですか！」

フェルト「ああ、異次元の調査をしてくるならこれをやる」

アルケイン「やります！」

フェルト「じゃあそこに立て」

アルケイン「はい、立ちましたよ」

フェルト「行くぞ！開け！」

フェルト「よし行け！」

アルケイン「それじゃあ行ってきます」

と言って異次元の扉へ入っていくアルケイン
バン！

????「フェルトはおらぬか！」

ビクッ！

フェルト「あっ！！」

????「聞いているのかフェルト！」

フェルト「何てことしてくれたんだ！ネフィリム！」ビクッ！

ネフィリム「いや、その……」

入ってきたのは魔導帝国ネクロスの初代皇帝にしてオルガ大陸統一を果たしたネフィリム皇帝その人である

フェルト「異次元の調査に行かせたアルケインが戻ってこれないじゃないか！」

S i d eアルケイン

アルケイン「あれ、扉が……ちょっとフェルトさ〜ん」

アルケイン「これ、帰れるのでしょうか？」

しばらく歩いていると光が射し込んでくる

アルケイン「ここが出口ですかね〜」

出てきた先は森だった

魔剣士会う（前書き）

まあ駄文なんで読んでいただけるだけでもこれ幸い

魔剣士会っ

出てきた森でアルケインが見たものは……

アルケイン「何ですかこれは？」

そこには空中に浮いている金属質の物体

アルケインが触ろうとすると眼鏡のレンズらしきものがこちらをむき赤い光線を放った

アルケインの顔に光線が直撃する

アルケイン「いくら不死者とはいえ痛いものは痛いんですよ。怒りましたよボク！」

と腰にある愛剣ダーククレイモアにてを伸ばし一閃

浮いている金属質の物体は一瞬にして動かぬ物体となる。

それが引きがねとなったのか周りから同じ形のもものが集まってきた

アルケイン「嘗めるんじゃないぞ鉄くず共が」

といい片っ端から切り捨てて行く

それを空中から見ているものがいると知らずに……

S i d e ????

????「さつきあつた次元震って」

????「ああ気になる早くいこう」

と二つの影が空を飛んで行く。

????「確かここらへんのはず……」

???「嘗めるんじゃないぞ鉄くず共が」
と下から声がする

声が聞こえた方を見ると明らかに血色の悪い男性がガジェットを切っている。

???「いけない助けなきゃ!」

と助けに行こうとするが

???「待て、テストロツサ」

テストロツサ「何で?襲われているんだよ」

???「あいつが持っている物を見る」

テストロツサ「……質量兵器」

???「しばらく様子を見るぞ」

テストロツサ「うん」

S i d eアルケイン

アルケイン「これで終わりだ」

と最後の一機に剣を振り下ろす。

アルケイン「終わりましたね」

???「動かないでください!」

アルケイン「何ですか今度は……」

いまここに魔剣士と魔法少女の物語が始まる

魔剣士知る（前書き）

駄文で申し訳ないが読んでいただければこれ幸い

魔剣士知る

アルケイン「誰ですか？」

と辺りを見回す

すると空から金色の髪をした女性が降りてきた

「???」時空管理局のものです武器を捨ててください

アルケイン「時空管理局ですか知らない名ですね、ああそう言えば異次元に来たんでしたっけ」

と答える

「???」次元漂流者！シグナム降りてきて」

ともう一人空からピンク色の髪をした女性が降りてくる

アルケイン「もう一人いたんですか」

なんとマイペースなことか

「???」あの、話を聞いてもらえますか？」

アルケイン「いいですよ」

「???」私は時空管理局のフェイト・T・ハラOWNと言います此方はシグナムと言いますが方も時空管理局員です」

フェイト「私たちはあなたのような他の世界から来た人を元の世界に戻す仕事をしています、なのでついてきてもらえませんか？」

アルケイン「ええ、構いませんよ」

フェイト「ではまずその剣を此方に渡してくださいこの世界では質量兵器の所持は犯罪になるので」

アルケイン「そうですかどうぞ」

とダーククレイモアを渡す

フェイト「ではついてきてください」

とヘリコプターの近くに連れて行く

アルケイン「何ですこれは」

フエイト「これはヘリコプターといって空を飛ぶ機会です」
アルケイン「ああ」
と頭の中でルスラン王国のオモイカネを想像する
アルケイン「で聞きたいんですがここは何処です？」
フエイト「ここはミッドチルダと呼ばれる世界です」
シグナム「おい」

Sideシグナム

シグナム（こいつは何なんだ人間に限りなく近いが……こいつをこのまま主に近づかせていいものか？）
シグナム（聞いてみるか）
と思いついたシグナムは
シグナム「おい」
アルケイン「はい、何ですか」
シグナム「お前はいつたい何なんだ」
フエイト「ちよつと、シグナム！」
アルケイン「ああ、ボクは不死者ですよ」
シグナム・フエイト「なっ！」
アルケイン「どうかしましたか」
シグナム「お前人間じゃないのか？」
アルケイン「一応人間ですよ」
シグナム「そうかすまない変なことを聞いた」
フエイト「ごめんなさい」
アルケイン「別に構いませんよ500年も生きてるとそんな質問が出てくるのが久々過ぎて懐かしいですね」
などと爆弾を投下する

シグナム・フェイト「500年！」

アルケイン「あれ、何か変なこと言いましたか？」

シグナム・フェイト「いえ何でもないです」

不死者はこの世界で何をするのか

魔剣士立つ(前書き)

もうダメダメです

魔剣士立つ

アルケイン「ところでボクの処遇はどうなるんですか？」
フェイト「それはこれから向かう機動六課でお話します」

S i d e ????

????「次元漂流者やってどんな人やともうなのはちゃん」
なのは「そんなこと聞かれても会ってみないとわからないよはやて
ちゃん」
はやて「それはそうやけどな」

S i d e アルケイン

フェイトさん達と話しているうちに彼女達が言っていたであろう建物について

フェイト「それではまずアルケインさんには部隊長室に行ってもらいます」
アルケイン「わかりました」
フェイト「それではこちらに」

フェイト「失礼します次元漂流者の方をお連れしました」
アルケイン「失礼します」

はやて「どうも機動六課部隊長の夜神はやてです」
なのは「スターズ部隊隊長高町なのは一等空尉です」
フェイト「知っていると思います。がライトニング部隊隊長フェイト・
T・ハラオウン執務官です」
アルケイン「ボクは魔導帝国ネクロス不死工場部隊隊長兼魔導帝国
ネクロスが三将軍が一人アルエゴ・V・アルケインと申します」

はやて・なのは・フェイト「将軍！」

はやて「将軍閣下とは知らず申し訳ありません」

アルケイン「別にいいですよそんな畏まらなくても」

はやて「そうですね普通話話させてもらいます」

はやて「まずあなたがいた世界はまだ見つかっておりませんので
ぐに帰すことはできません」

アルケイン「……そうですね」

はやて「そこであなたの世界が見つかるまで私たちの部隊で働いて
もらえませんか？」

フェイト「はやて!？」

はやて「さっきの映像見させてはもらいましたけど私たちの部隊は
戦力がいくらあっても足りません無論衣食住はよいさせていた
きます」

アルケイン「いいですけど2つ条件があります」

はやて「……なんですか？」

アルケイン「まずボクの剣を返して欲しいのとワインをください」

はやて「剣はデバイスにすれば返せます」

アルケイン「じゃあやってももらえますか？」

はやて「はい、あとワインはなんですか」

アルケイン「ボクにとって水みたいな物なので」

はやて「わかりましたよいしときます」

アルケイン「ありがとうございます」

はやて「了承してもらったしこれからは仲間としてよろしく頼んま

す」

アルケイン「口調変わってますよ」

はやて「いいねんこつちが素やから」

アルケイン「そうですかではこれからよろしくお願いします」

はやて「じゃあまずは身体検査に行ってもらいますリンカーコアがないとデバイスは起動出来ないの」

アルケイン「わかりました」

はやて「じゃあなのはちゃん案内よろしくな」

なのは「うん、ではアルケインさんこちらに」

はやて「まさか將軍だったとはなあ」

フェイト「そうだね……あっ！」

はやて「どうしたフェイトちゃん」

フェイト「あのひと不死者だつてこと言っの忘れてた」

はやて「不死者やて！」

フェイト（シャマルびっくりしてるだろうな……）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4618r/>

英雄の歩み

2011年10月8日20時50分発行